

市長から市民のみなさんへ

107

市長白平博文

職員の定員適正化について

合併後、明るみに出た財政破綻寸前の本市の財政状況を建て直すため、市民のみなさん、諸団体、事業者のみなさんには大変なご協力をいただきました。市の職員も頑張りました。おかげさまで本市の財政状況は着実に明るさを取り戻しつつあります。特に、市の組織や事務の見直し、職員の新規採用を抑えることに努力した結果、本市の職員数は平成17年4月と比較し、4年後の平成21年4月では206人減少し、削減率は18.9パーセント。この削減率は県下で最高です。（新聞報道に一部異なる数字が出ていましたので、改めてご報告させていただきました。）今年の3月末には、また40人前後の職員が定年等で辞めていきますが、今年はある程度の補充を予定しています。どこの市役所もそのようですが、正規の職員のほかにかなりの臨時職員がいます。この正規と臨時を含め、本市の人口規模等に照らし、望ましい職員の定員管理計画を本年秋までに何とか策定したいと考えています。

企業訪問について

毎年、1月は企業訪問が市長の恒例の行事です。地元企業は日頃、担当職員に任せていますので、市長の仕事は、東京、大阪、広島などの本社を回り、社長や役員にお会いして新年のご挨拶と、本市への更なる投資や雇用の拡大をお願いすることです。一人ずつ顔が違ふのと似てお人柄も様々ですが、総じて歓迎して下さる会社が多く、話題も最近の景気から地元企業（本市の工場）の将来構想まで幅広く、昼食をご馳走になったり、後日、市長も経営者だからと、「経営者の心得」を

説く本まで市役所に送ってくださる方もいらっしゃいます。良い機会ですので、県の東京事務所や大阪事務所にも顔を出し、企業誘致に役立ちそうな情報の入手にも努めています。

市営住宅マスタープランについて

本市には市営住宅が約1,500戸あります。小野田地区に約1,000戸、山陽地区に約500戸。ほとんどが建築後かなりの年数を経ていて、入居者の高齢化とともに、使い勝手の良くない住宅が増えています。特にしゃがむのが苦手な高齢者にとってトイレの洋式化は喫緊の課題です。また、室内や高層住宅での階段の上り下りも高齢者には苦痛で、こうした高齢者への配慮が、これからの住宅政策には不可欠になってくると考えます。



▲ 手すりのついたバスルーム

本市では、この度、全市的に市営住宅の改築を年次的に取り組む計画を作りました。「一気に」という訳にはいきませんが、上記の点に十分留意しつつ、より住みやすい市営住宅の建設を進めていく予定です。



▲ 改築された平原団地



対話の日

【19:00から】

2月25日(木) 小野田保健センター